

柔道連盟

幕別町体育連盟40周年記念誌の発刊にあたり、全幕別柔道連盟では、昭和63年より平成9年までの10年間の記録で沿革誌を編成した。

昭和63年7月31日、第10回全北海道少年柔道優勝大会が、札幌中島体育センターにおいて開かれた。

今回は中学生の活動が期待されていた。それは今までとは少し違う選手層の厚さであった。身長182cm、体重105kgの川尻年昭（豊頃中）、174cm、95kgの山根忠彰（札内中）など、大型選手が目立った今年のチームだった。9月4日、全日本新人体重別柔道選手権大会十勝地区予選の65kg以下級で岡田全博2段が圧倒的な強さで優勝した。9月25日、第16回東部十勝少年柔道大会が幕別町トレーニングセンターで開催された。この大会で全幕別は、団体戦で小学生Aチーム、中学生Aチームがそれぞれ優勝、アベック優勝を飾った。尚、中学生団体は2連覇をなしとげた。一方、個人戦では小学生4年の部で乾慎太郎、中学生1年の部で高橋宏之、同2年の部で山根忠彰、同3年の部で有沢耕二がそれぞれ優勝した。11月3日、全日本新人体重別柔道選手権大会北海道地区予選で、岡田全博2段が65kg以下級で準優勝、道下訓央2段が78kg以下級で第3位に入賞した。

幕別町体育連盟は2月19日、幕別町民会館において創立30周年の記念式典を開催した。席上、体育連盟功労者として、柔道連盟から安部政夫、佐々木房男、金野忠、飯沢常造の4氏が体育連盟会長より表彰された。

平成元年6月18日、第33回全十勝少年柔道大会が帯広の森体育館で開催された。その結果、団体戦では、小学生高学年の部で全幕別が第3位、個人戦では小学生高学年の部で筒渕真也が第3位に入賞した。

8月3日、第11回全道少年柔道優勝大会は、札幌中島体育センターで開かれた。選手団は中学生が、山根忠彰、中屋敷強機、坪坂透、高橋哲嘉、佐々木隆、森本昭仁、小学生は、筒渕真也、高橋直樹、西川武彦、小田鳴知之、乾慎太郎の各選手であった。試合の結果、中学生団体は1回戦、札幌北区と対戦し、全幕別は3対0で札幌北区を破った。2回戦は夕張と対戦し、この試合も4対0で全幕別が大勝した。続いて3回戦は、強豪釧路共栄と対戦。この試合は圧倒的に釧路が強く、4対0で釧路共栄が勝利をつかんだ。結局、中学生団体が優勝したのは、釧路共栄チームであった。

10月10日、池田町柔道少年団創立20周年記念で、第17回東部十勝少年柔道大会が、池田町総合体育館で開催された。この大会では、小学生団体が2年連続優勝を飾った。また、個人戦では、小学生5年の部で乾慎太郎、中学3年生の部で山根忠彰が、それぞれ優勝した。

12月10日、第20回全十勝少年団柔道大会は落成したばかりの札内スポーツセンターで開かれた。久しぶりの地元の開催とあって柔道連盟の関係者、OBの父母など、大勢の応援を受けながら選手達はがんばった。その結果、団体戦では小学生のチームが準優勝、個人戦では小学5年生の部で乾慎太郎がよくがんばり、決勝まで進出したが、惜しくも優勝をのがし準優勝となった。一方、

6年生の部では、筒渕真也が第3位と健闘した。

12月17日、第19回全幕別柔道選手権大会は、札内スポーツセンター武道館において開かれた。今大会からは、前会長で現名誉会長の山田 栄氏より山田栄杯が設けられ、出場した選手は、この山田杯と、新田達道杯をめざしながら熱戦が繰り広げられた。

次に今年の大会等で特に目立った出来事としては、北海道柔道専門学校に在学中の、道下訓央は第22回全国柔整学校協会柔道大会の団体戦で、自己の成績として、2勝2分とした。また、団体戦では2部で北海道柔専が優勝した。

11月、全十勝高校柔道選手権大会の軽量級で、小林信也（帯広農高）が見事優勝した。そのほかの話題として、有沢耕二が東海大学第四高等学校に進学した。

平成2年7月1日、第3回釧路方面防犯少年柔道大会は、釧路市厚生年金体育館において開かれた。この大会は、道警釧路方面本部後援、釧路方面防犯協会連合会主催で行われた。全幕別は昨年と今年の2回、帯広警察署より出場要請を受け選手を派遣した。しかし2年連続第3位と云う成績で終わってしまったが、防犯意識を高めるといふ目的は達成した。今後も更に各選手の努力を期待する。

さて、10月10日は、いよいよ柔道連盟創立20周年記念事業の日である。10周年が終り、早くも20年目が来てしまったのである。そして記念大会の第18回東部十勝少年柔道大会が札内スポーツセンターで開かれ、あわせて創立20周年記念式典も挙行された。

平成2年(1990年)10月13日(土曜日) (10)

(第3種郵便物認可)

十 勝 毎

小、中学とも全幕別V

東部十勝少年柔道大会



団体の中学生の部で優勝した全幕別のメンバー

【幕別】全幕別柔道連盟創 場で行われ、団体の小、中学少年団から八十人が出場、立二十周年記念第十八回東部生の部とも全幕別柔道連盟が十勝少年柔道大会が十日、札 優勝した。大会には幕別、池内スポーツセンター内の武道 田、浦幌、足寄、本別の柔道にトナメント戦で熱戦を繰り広げた。

△団体V小学生の部1△全幕別(佐々木房男監督)乾慎太郎、小田嶋知之、高橋努、森本和行、棚瀬竜司の池田①足寄、本別V中学生の部①全幕別(金野忠監)高橋西嘉、坪坂透、中川学、佐々木隆、筒渕真也、池田A④足寄、浦幌A
 △個人V小学一年の部①中嶋隆一(池田)②小林敬志(本別)③松本俊輔(本別)金野洋祐(全幕別)▽同二年の部①森田勉(足寄)②菅野修司(同)③岡沢徹(本別)浅井孝太(池田)▽同四年の部①出光栄介(池田)②松本広昭(本別)③田中大輔(同)小野寺康博▽同五年の部①武原賢二(足寄)②森本和行(全幕別)③小田嶋知之(同)相築徳寛(同)▽同六年の部①乾慎太郎(全幕別)②小田嶋知之(同)③菅野希希(同)多田広和(池田)▽中学

一年の部①筒渕真也(全幕別)②高橋直樹(同)③佐藤真也(足寄)多田博典(浦幌)▽同二年の部①佐々木隆(全幕別)②多田啓介(池田)③田村裕徳(池田)中川学(全幕別)▽同三年の部①新居精二(浦幌)②外崎重樹(同)③高橋西嘉(全幕別)坪坂透(同)

記念大会の東部十勝大会では、小、中学生の団体戦で全幕別がそろって優勝した。大会には地元の幕別、池田、浦幌、足寄、本別の柔道少年団から80人が出場。団体はリーグ戦、個人は学年ごとにトーナメント戦で熱戦を繰り広げた。また、連盟の創立20周年記念式は大会に先立ち午前10時から開かれ、功労者表彰などを行い盛大に20周年を祝った。

連盟は昭和45年に創立。少年団を組織し、週2回ずつ幕別と札内で指導する一方、東京都目黒区の柔道場と交流を続けるなどの活動を行っている。この日は連盟の役員、来賓、記念柔道大会に出場する選手ら合わせて120人が出席。安部会長があいさつしたあと、連盟名誉会長の山田 栄、顧問の小林繁郎、新田彰生、会長の安部政夫、理事長の佐々木房男、副理事長の金野 忠、常任理事の飯沢常造、道下正徳の各氏に功労者の表彰状が手渡された。受賞者を代表して山田 栄名誉会長が謝辞、林 照男幕別町長、関口茂男町議会議長らが祝辞を述べた。大会終了後、祝賀会が錦町の寿々半で開かれた。

11月18日には全十勝少年団柔道大会が更別村で行われ、小学6年生の部個人戦で乾慎太郎（札南小）が第3位と健闘した。平成3年7月7日釧路方面防犯少年柔道大会が釧路方面警察学校道場で開かれ団体第3位に入賞。8月17日十勝東部5町柔道少年団の合同練習と親善試合が札内スポーツセンターで行われ、終了後、懇親会が温泉焼肉ガーデンで開かれた。

柔道少年団の相互訪問をきっかけにして幕別町は東京都目黒区と交流を続けているが、8月20月から28日の間、全国大手のマルコメ味噌株式会社（本社長野市）青木時男常務（現、副社長）の長男で慶応義塾大学幼稚舎4年生、柔道少年の青木秀太君がホームスイティで幕別を訪問し、連盟の小林信治監査役と金野忠監督の自宅にそれぞれ宿泊して交流を深めた。

10月13日、第19回東部十勝少年柔道大会が本別町体育館で開かれ、全幕別は小学生、中学生の団体が昨年に続いて連続優勝をとげた。10月20日、第21回東北海道少年団柔道大会が釧路市厚生年金体育館で行われ団体戦で小学生高学年の部が決勝に進出した。決勝戦は釧路柳町チームと対戦して3対2で全幕別は惜しくも負け準優勝となった。

11月24日第23回全十勝少年団柔道大会が音更中学校体育館で開かれ、団体戦で小学生チームが決勝戦で青雲塾チームと対戦して2対3で準優勝となる。個人戦では小学5年生の棚瀬竜二（白人小）が準優勝。6年生の高橋 努（白人小）が第3位。

平成4年3月8日に平成3年度優秀選手の表彰式が行われた。優秀選手は高橋 努（白人小）、棚瀬竜二（白人小）の2名。また、奨励賞は鈴木拓磨（幕別中）、森本昭仁（幕別中）、佐々木隆（札東中）の3名。

6月28日、第1回帯広地区防犯少年柔道大会が帯広市総合体育館で開催され、団体戦では全幕別が優勝を果たした。個人戦では小学生の部で、棚瀬竜司（白人小）が優勝、城石博康（札北小）が第3位となる。

10月25日、第20回東部十勝少年柔道大会は浦幌町総合スポーツセンターでセンター落成記念大会として開催された。その結果、団体戦では小学生（監督、佐々木房男、選手 金野洋祐、角 一朗、富田英人、城石博康、棚瀬竜司）で全幕別Aが4連勝を、中学生（監督、金野 忠、選手 高橋 努、森本和行、小田嶋和之、高橋直樹、筒渕真也）も3連覇を達成した。

11月1日、第23回全十勝少年団柔道大会が広尾町武道館で開かれ、個人戦の中学3年生の部で前田一史が第3位、高校生女子の部で小田嶋亜紀子（更別高）が準優勝。

11月22日、第22回全幕別柔道選手権大会が町武道館で行われた。小学生低学年の部では金野洋祐(幕別小)、高学年の部では棚瀬竜司(白人小)、中学生の部では筒渕真也(札内中)、無差別級では中屋敷強機(江陵高)がそれぞれ優勝した。

6月23日、帯広地区防犯協会連合会の総会がウェディングプラザみやもとで開かれ、席上、佐々木房男理事長と金野 忠副理事長が、長年、柔道を通して青少年の防犯意識の高揚に努めた功労が認められ防犯協会連合会高橋幹夫会長より表彰を受けた。

7月24日から28日まで第4回東京遠征が行われた。遠征した選手は高橋 努(札東中2年)、城石博康、二階堂光(以上、札東中2年)、角 一郎(白人小5年)、佐藤俊博、金野洋祐、江田文香(以上、幕別小4年)で目黒区役所を訪問、東京ではホームステイをしながら日黒区少年団、横浜の少年団とも交流や親睦を深めたほか、国会議事堂、東京ドーム、講道館などを見学した。

8月25日、全日本柔道連盟男子強化部の上村春樹部長が6度目の来町し金野監督の自宅に関係者30人が集まり「上村春樹さんを囲む夕べ」が開かれた。

10月10日、第21回東部十勝少年柔道大会が池田町総合体育館で開催された。個人戦では小学2年生の部で中島一樹(白人小)、4年生の部で金野洋祐、5年生の部で角 一郎(白人小)がそれぞれ優勝した。

11月28日、第24回全十勝少年団柔道大会が音更町サンドームで開かれ、団体戦では中学生の部が第3位。個人戦では小学1年生の部で茂庭紳吾が準優勝、2年生の部で中島一樹(白人小)が優勝、大前勝彦が準優勝の成績をおさめた。

平成6年1月9日、第39回全十勝鏡開き柔道大会が帯広の森体育館で開催され、小学1年生の部で茂庭紳吾(札南小)が第3位、2年生の部では大前勝彦(幕別小)が第3位となる。

3月6日、平成5年度優秀選手の表彰式が札内武道場で行われ、優秀選手は茂庭紳吾、中島一樹、大前勝彦、金野洋祐、角 一郎、棚瀬竜司、高橋 努、筒渕真也、高橋直樹、佐々木隆の10名が表彰された。

6月26日、東海大学第四高等学校柔道部(監督、水落満雄)一行が来町し、全幕別少年団の選手を集めて柔道教室を開催した。

10月1日、幕別町教育委員会は平成6年度の幕別町スポーツ賞の表彰式を町民会館で開催した。その日は幕別町開町記念日で林 照男町長が「受賞者の功績に感謝するとともに今後の活躍に期待したい」と式辞。続いて黒沼友一教育委員長が佐々木房男理事長、金野 忠監督にスポーツ賞を授与した。

10月16日、第22回東部十勝少年柔道大会が幕別町武道館で開かれ、個人戦では小学3年生の部で中島一樹(白人小)、5年生の部で金野洋祐(幕別小)が昨年に続き優勝を果たした。

10月30日、第24回東北海道少年柔道大会で団体戦小学4年生以下の部で全幕別が第3位となる。

11月27日、第25回全十勝少年団柔道大会が中札内村体育館で開かれ、個人戦、全幕別は小学2年生の部で山口智宏(札南小)と茂庭紳吾(札南小)、3年生の部で松井秀隆(幕別小)、5年生の部で金野洋祐(幕別小)、6年生の部では角 一郎(白人小)がそれぞれ第3位となる。

12月3日、名誉町民となった山田栄名誉会長と幕別町スポーツ賞として表彰された佐々木房男理事長、金野 忠監督の受賞祝い兼平成6年忘年会が温泉駒屋で関係者が多数集まり盛大に行われた。

平成8年1月8日、第40回全十勝鏡開き柔道大会が帯広の森体育館で開催され、小学3年生の部で中島一樹（白人小）が準優勝、6年生の部で角 一朗（白人小）、中学2年生の部で棚瀬竜司（札東中）、3年生の部で高橋 努（札東中）が、それぞれ第3位となる。

2月26日、平成6年度優秀選手表彰式が町武道館で開かれ、茂庭紳吾、山口智宏、中島一樹、松井秀隆、金野洋祐、角 一朗、棚瀬竜司、高橋 努、筒渕真也、前田一史、高橋直樹、佐々木隆が優秀選手としてそれぞれ表彰された。また、奨励賞には相楽徳貴が選ばれた。

3月20日、第9回マルチャン杯北海道少年柔道大会が帯広市総合体育館で開催された。中学生の団体戦では決勝トーナメント1回戦まで進出した。

6月10日、第3回帯広地区地域安全少年柔道大会が帯広の森体育館で開かれ、個人戦の小学生女子の部で松井麻美（幕別小6年）が優勝した。

6月18日、第39回全十勝少年柔道大会兼第11回全十勝女子柔道大会が中札内村民体育館で開かれた。団体戦では小学生低学年の部、高学年の部が第3位、個人戦の小学生女子の部では期待の松井麻美が圧倒的な強さで優勝した。

10月15日、第23回東部十勝少年柔道大会が本別町で開催された。この大会では小学生の全幕別Aが団体優勝、また、優秀選手賞には松井麻美が選ばれた。

10月22日、第25回東北海道柔道少年団柔道大会が釧路市厚生年金体育館で開催された。団体戦の小学生4年生以下の部では念願の初優勝をなしとげた。選手は松井秀隆、谷口翔一、大前勝彦、越坂佑耶、中島一樹の5名。また、5、6年生の部では第3位に入賞した。

11月26日第26回全十勝少年団柔道大会兼第13回全十勝女子柔道選手権大会が中札内村体育館で開かれた。個人戦、小学1年生の部で笹島慎太郎が優勝、4年生の部では松井秀隆と中島一樹が第3位、中学3年生の部では棚瀬竜司が第3位、そして小学生高学年の部では松井麻美が優勝した。個人戦の女子小学生高学年の部を制した松井麻美は10月に釧路市で行われた東北海道少年団の大会では団体小学5、6年の部で全幕別がただ一人女子で代表に選んだ選手で中堅として出場し3位入賞に貢献した。松井麻美は運動能力と積極性が優れており全幕別の女子選手では過去に例のない優秀選手として関係者は大きな期待を寄せている。



東北海道大会で初優勝（釧路市）

平成8年1月14日、第41回全十勝鏡開き柔道大会は中札内村体育館で開催され、小学1年生の部で笹島慎太郎が優勝、4年生の部では中島一樹が準優勝、中学1年生の部で角 一朗が第3位、3年生の部で吉川善一が第3位、小学生高学年女子の部では松井麻美が優勝。

2月14日、平成7年度優秀選手の選考会が寿々半で行われ、優秀選手11名、奨励賞1名が決まった。優秀選手中で十勝のすべての大会で優勝した松井麻美（幕別小6年）は、今や「十勝のヤワラちゃん」と呼ばれ、新聞紙上やラジオ放送でその話題が取り上げられている。また、特別表彰として、東北海道大会で優勝した少年団チームも選ばれた。

5月25日、第4回帯広地区地域安全少年柔道大会では個人戦中学女子の部で松井麻美が準優勝。

6月16日、第40回全十勝少年柔道大会は帯広の森体育館で開かれ、団体戦では小学低学年の部で優勝。高学年では第3位、個人戦の小学生低学年の部では茂庭紳吾が準優勝する。

7月21日、平成8年度全十勝中学校柔道大会は新得町で開催され、女子48kg級で松井麻美が第3位となる。

平成8年は、幕別町開基100年記念の年で、アトランタオリンピックの開催年でもあり、100年記念事務局より連盟の事務局に柔道の世界チャンピオンで全日本強化部長の上村春樹ほか1名で、記念講演会と柔道教室を開催してほしいとの要請があった。連盟の金野忠事務局長が友人の上村春樹に電話で依頼した時、アトランタオリンピックの柔道で金メダルを獲得した場合、その選手の派遣も合わせてお願いし、オリンピック終了後、国内で最初に金メダリストによる柔道教室の開催が決まった。そして、オリンピックでは柔道で中村兼三選手が見事に男子71kg級で金メダルを獲得した。8月17日午後零時40分、帯広空港に上村春樹強化部長とアトランタオリンピック金メダリストの中村兼三選手（旭化成）が到着した。全幕別の連盟では空港で歓迎セレモニーを行い父母代表の松井久美、西川留美子が花束を贈呈し、両氏を迎えた。同日、午後6時30分より町民会館の地下大集会室で上村春樹氏による記念講演会が開かれ大勢の町民や管内はもちろん、遠くは旭川、釧路から講演を聞きに詰め掛けた。翌、18日には午前10時より幕別町武道館で柔道教室が開催され、十勝管内の小、中学生、高校生ら約80人が参加して上村春樹部長と中村兼三選手の指導を受けた。その模様はテレビ、ラジオ各局、そして新聞各社が競って取り上げ幕別町100年記念の一つの行事が成功して、管内外にアピールすることができたであろう。



1996年（平成8年8月18日）於 幕別町武道館

10月13日、平成8年度全十勝中学校柔道新人戦大会で男子65kg以下級で角 一郎（札東中2年）が優勝、同級で青砥直紀（幕別中1年）が準優勝、女子52kg以下級では松井麻美（幕別中1年）が優勝した。

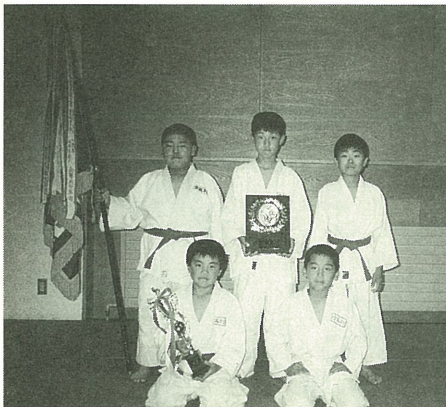
11月24日、第27回全十勝少年団柔道大会は音更町で開かれ、団体戦では小学生の部で全幕別A

が第3位、個人戦では小学2年生の部で笹島慎太郎が優勝、二瓶 亮が準優勝、5年生の部では谷口翔一が第3位、6年生の部では宮田 学が準優勝、女子小学生低学年の部では森若 愛が第3位。

平成9年1月12日、第42回全十勝鏡開き柔道大会が帯広の森体育館で開催され、個人戦、小学1年生の部で土井翔太が第3位、2年生の部で笹島慎太郎が優勝、二瓶亮が準優勝、5年生の部で松井秀隆が準優勝、中島一樹が第3位、6年生の部で宮田 学が第3位、女子小学生の低学年では岡野夏実が準優勝、中学生女子の部で松井麻美が第3位にそれぞれ入賞。また、優秀選手賞には松井麻美、笹島慎太郎、角 一朗らが選ばれ表彰された。

5月24日、第5回帯広地区地域安全少年柔道大会が行われ、団体戦では全幕別が準優勝を果たし、釧路方面大会の選手選考の結果、全幕別からは4名の選手(松井秀隆、中島一樹、大前勝彦、青砥直紀)が出場する事になった。その内、方面大会では松井秀隆がAチームで出場して帯広警察署管内チームは見事に優勝を果たした。その後、全道大会に向けて選手の選考が帯広警察署で進められ、5名の主力選手に松井秀隆と中島一樹が決定した。

6月22日、第41回全十勝少年柔道大会が帯広で開かれ、全幕別は小学生低学年の部と高学年の部が見事にアベック優勝を飾った。低学年は決勝で潜水チームを破り、昨年に引き続き2年連続優勝を果たした。また、高学年は決勝で帯広を3対2で下し優勝した。



全十勝大会2連覇の小学生低学年チーム



全十勝大会優勝の小学生高学年チーム

7月20日、全十勝中学校柔道大会は帯広で開催され、男子65kg級で角 一朗(札東中3年)が準優勝、女子52kg級で松井麻美(幕別中2年)が優勝した。優勝した松井は8月の全道大会に出場を決めた。しかし、全道大会では惜しくも予選リーグで敗退した。さて、地域安全少年柔道大会の全道大会は7月21日に札幌市、北海道警察学校柔道場で開催された。帯広管内チームは優勝をめざし主力選手5名の中に松井秀隆(幕別小6年)、中島一樹(白人小6年)が選抜され大会に臨んだ。その結果、順調に決勝戦まで進み決勝は旭川方面



柔道全国大会で3位と大健闘

チームと対戦し2対2で代表戦の結果、有効勝ちして見事に優勝を果たし、全国大会へ出場を決めた。

全国大会は8月6日に、東京都内の警視庁武道館で全国47都道府県48チームで開催された予選リーグでは香川県、大分県を4対1で下して決勝トーナメントに進出、鳥取県、宮崎県を連破し準決勝に臨んだが、群馬県代表に2対3で惜敗した。しかし、北海道チームとしては史上初の快挙であった。

9月6日、全十勝大会優勝と全国大会第3位入賞を記念する祝勝会が寿々半で開かれた。全幕別は今シーズンの全十勝大会で小学低学年、高学年そろって優勝。また、全国少年柔道大会に北海道代表の帯広警察署管内チームの一員として出場し見事全国3位に入賞した。祝勝会には連盟の役員や父母ら約30人が出席。拍手でチームを迎え、金野 忠監督が成績発表した。次いで安部政夫会長があいさつし、来賓の清水 雅助役、喜多龍一道議会議員が祝辞を述べた。森野幸作町防犯協会会長の乾杯、選手全員が感想と抱負を語ったほか、連盟の貝森拓司顧問の音頭で万歳三唱して閉会した。

10月10日、第25回東部十勝少年柔道大会は幕別町武道館で開催され、団体戦で全幕別が小学低学年、高学年、中学生の3階級で完全制覇を果たした。

10月12日、平成9年度全十勝中学校新人柔道大会は士幌町総合研修センターで行われ、個人戦では男子55kg級で金野洋祐が2回戦で初段の選手を下し決勝戦に進出したが惜しくも準優勝。一方、高橋 慶は第3位、65kg級で出場した宮田 学は健闘して準優勝。女子は52kg級で松井麻美が2年連続優勝を果たした。

連続で優秀選手

「人に負けたくない、という気持ちが強くなってきました」と笑顔の中にも闘志をのぞかせるのは、全幕別柔道連盟の本年度の優秀選手に二年連続で選ばれた幕別中一年の松井麻美さん(三)。

四年前に柔道を始め、昨年度は三つの十勝大会を含む五つの小学生大会すべてを制した。中学生大会の優勝は二つにとどまったものの、他の大会でも体の大きな上級生を相手に二位や三位に入賞する奮闘ぶり。秋には初段に挑戦するが「柔道だけが楽しく、勉強も学校生活も楽しみたいです」と、「十勝のヤワラちゃん」は、あくまで自然体。



△幕別▽

1996年